第 2 回あいち国際戦略プラン検討会議記録

日　時　：　2022 年 7 月 13 日（水）13:58～15:57
場　所　：　愛知県庁本庁舎 3 階特別会議室
開催方法：　対面及びオンライン
出 席 者 ：　出席者一覧のとおり

１　開会あいさつ
＜木俣国際課長＞
　ただいまより、第 2 回あいち国際戦略プラン検討会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。私は事務局の愛知県国際課長の木俣でございます。座長に進行を引き継ぐまで司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日はクマーラ委員がオンラインでの参加となり、国連地域開発センターの遠藤委員が所用のためご欠席です。早速ではございますが、会議の開催にあたり、主催者である愛知県政策企画局長の沼澤より挨拶させていただきます。

＜沼澤政策企画局長＞
　政策企画局長の沼澤でございます。着座でご挨拶させていただきます。委員の皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中ご出席をいただきまして、ありがとうございます。
　この 5 月から 6 月にかけまして、本県では海外の地域・機関との協定を新たに 4 つ締結したところです。まず 5 月に、知事がフランス・イスラエルに渡航いたしまして、フランスのオーベルニュ・ローヌ・アルプ地域圏と友好交流及び相互協力に関する覚書を、また、イスラエルのイノベーション庁、そして同国の非営利団体、Start-Up Nation Central との間で、スタートアップシーンにおける連携協力に関する覚書を締結いたしました。
　さらに先月 30 日には、中国の浙江大学と包括交流に関する覚書を締結したところでございます。これらの地域・機関とは、今後、経済やスタートアップ、人的交流等の分野で連携を進めてまいります。
　第 2 回目となります本日の会議でありますが、まず第 1 回の会議、それから先日、委員の皆様にヒアリングをさせていただきまして、そこでのご意見をもとに、事務局で作成をした次期国際戦略プラン骨子案につきまして、ご説明をさせていただきます。
　皆様にはこの事務局の案を踏まえて、次期プランの方向性について、また、関連施策をどのように進めていくべきかについてご議論をいただきたいと考えております。
　本日の議論を踏まえた上で、今後事務局で全体の素案を取りまとめまして、委員の皆様のご意見をいただきながら、年内に次期プランを策定してまいりたいと考えております。
　達成に向けまして、忌憚のないご意見をいただきますようお願いを申し上げ、簡単ではございますが、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。
　本日はどうぞよろしくお願いいたします。

＜木俣国際課長＞

続きまして、鮎京座長から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

＜鮎京座長＞

皆様方、本日は暑い中ご苦労様でございます。

今、沼澤局長からお話がありましたが、愛知県知事が先般、オーベルニュ・ローニュ・アルプ地域圏などに行かれて、スタートアップ事業について、様々な取組をされたというお話がございました。これは非常に個別的な話ではありますけれども、委員の中にも大学関係の方がおられるので申し上げますが、やはり大学としても、県のそうしたスタートアップに関わるフランスとの連携の課題が明確に出されて、そして協力が求められていると私は思っておりまして、すでに愛知県立大学のスタートアップの担当教員には、この秋までに、早急にこうしたスタートアップ事業、特にフランスとの連携について、重点的に行うように指示を出しておりますので、秋以降何らかの動きや成果があると思います。従いまして、ぜひ他の大学の関係の方々におかれましても、愛知県にある大学ということで、ご協力いただければと思います。

さて、このあいち国際戦略プラン検討会議ですが、今日は 2 回目ということで、今後のスケジュールについては、後に事務局から説明がありますが、10 月の下旬には第 3 回検討会議が予定されておりまして、そして最終的には、今年の 12 月にはプランを公表します。その間にパブリックコメントも受けながらプランをつくり上げるということで、ある意味ではそれほど多くの時間があるわけではございません。しかしながら、私は個人的に大変感心しているのですが、第 1 回目の検討会議から今日に至るまでの間に、先生方には第 1 回目の議論、ご発言を踏まえてきちんとしたご意見を改めて述べていただいたとともに、県の担当者には非常にこまめに委員の先生方のところを訪問し、委員の意見を非常にきちんと理解していただいた上で、今日の会議を迎えております。

そういうことでございますので、今日はまた、これまでの議論の積み重ねを踏まえて、新しくご意見を出していただいて、それをこの秋、もう少し皆さんで揉み、最終的なプランにしていきたいと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

＜木俣国際課長＞

ありがとうございました。

それでは、配付資料の確認をさせていただきます。次第に続きまして、会議の出席者名簿、配席図、検討会議の設置要綱、それから、資料 1 ということで、プランの骨子案、後ろ 2 枚が具体的な施策、その下の資料 2 は、前回 1 回目の検討会議の発言要旨でございます。そして最後に資料 3 として、愛知県と海外の地域政府・機関等との提携の状況をまとめましたので、参考に付けさせていただきました。ない方はございませんか。よろしいでしょうか。

それではここからは、進行を鮎京先生にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

２　次期国際戦略プランの骨子案について

＜鮎京座長＞

それでは、早速ではございますが、次第 2 の次期国際戦略プランの骨子案について事務局からご説明

をお願いします。

＜一井担当課長＞

それでは、まず資料 1 をご覧ください。こちらが第 1 回検討会議及び先日の委員の皆様のヒアリング時の意見を踏まえまして、事務局で取りまとめた骨子案になります。

骨子案の全体の構成でございますが、策定の趣旨、愛知県の現状、目指すべき愛知の姿、目指すべき愛知の姿を実現する戦略・施策の方向性、以上の 4 項目で構成をされております。

策定の趣旨の中で、県を取り巻く国際情勢について言及し、愛知県の現状の項目で、本県の内部の現状を記載しております。そして外部の環境と内部の現状を踏まえまして、目指すべき愛知の姿を定め、それを、目指すべき愛知の姿を実現するための戦略・施策の方向性に記載したという形になっております。戦略・施策の具体的な内容につきましては、来年度以降に実施予定の施策の一部を、2 枚目 3 枚目にまとめております。

次に策定の趣旨でございます。資料一番上の欄の策定の趣旨につきましては、次期国際戦略プランがなぜ新たに策定する必要があるのかという観点で整理をしております。現行のあいち国際戦略プラン 2022 を策定して以降、第 4 次産業革命や、脱炭素化の進展など、従来から進んでおりました国際社会の変化に加え、新型コロナウイルスの感染拡大、国際情勢の悪化という非常に大きな変化がありました。そうした国際社会の変化に対応した新たなプランが必要であるという認識を愛知県として持っております。

また、プランの目標が、本県が世界とつながり成長する地域であり続けることにあるのだということも、この策定の趣旨の中で記載をしております。

次に、愛知県の現状でございます。愛知県の現状では、第 1 回検討会議にあたり、事務局で整理をしました各種統計データや、委員の皆様からの指摘をもとに、愛知県の現状を整理しております。愛知県の現状を、今後の国際戦略を考える上での強みと課題に分け、国内のグローバル人材の育成に関すること、外国人材に関すること、県の魅力に関すること、産業に関すること、というように、分野ごとに整理をしております。

次に、目指すべき愛知の姿でございます。目指すべき愛知の姿では、策定の趣旨で掲げました、本県を取り巻く環境の変化と、愛知県の現状で見た本県の強みと課題を踏まえまして、本県はどういった姿を目指すべきなのか、という点で記載をいたしました。

全体の目標としましては、「世界と行き来するヒト、モノ、カネ、情報により成長を続ける愛知」というものを掲げております。これは、現行プランで掲げている、「グローバルに注目を集め、世界とともに成長する愛知」と目指すところは同じでございます。

成長を続ける愛知を達成するための分野別の目指すべき姿として、愛知県の現状において記載をしました各分野の強みを生かし、課題を克服した姿を 4 つ挙げております。1 つ目は、ICT 人材を含めたこれからの時代に必要とされるグローバル人材を輩出する地域になるということ。2 つ目は、県内に外国人が数多くいる、というだけではなく、地域を発展させる人材として活躍していくということ。3 つ目は、地域の魅力が海外に対しても認知され、愛知のブランドが確立しているということ。4 つ目の姿として、愛知型成長モデルという言葉を使っております。この言葉につきましては、事前ヒアリングで委員の方から何を指しているか曖昧だというご意見もいただいております。これは本県の「あいち経済労働ビジ

ョン 2021-2025」の中で使用している言葉でございまして、モノづくり産業のさらなる集積と、スタートアップと連携したイノベーションの創出などのデジタル化への対応とを組み合わせることで、成長を続ける本県独自の成長モデルを指しております。

これら4つの姿を実現することで、「世界と行き来するヒト、モノ、カネ、情報により成長を続けられる愛知」を達成することができると考えております。

次に、目指すべき愛知の姿を実現する戦略・施策の方向性でございます。資料一番下の枠の中でございますが、4 つの目指すべき姿を実現するため、各分野で進めていく戦略・施策の方向を示しました。方向・考え方をわかりやすく示すため、分野ごとに○○×○○というイメージをキャッチコピー的に書き入れております。これら 4 つの施策は、当然ながら、相互に関係し合っております。例えば、イノベーティブな人材の育成が進めば、愛知型成長モデルに資するイノベーションの創出につながりますし、あるいは、高度外国人材の定着が進めば、企業の海外進出の後押しになります。このように、相互に関連する各分野の戦略を進めることで、目指すべき愛知の姿に近づくことができると考えております。

また、横長の色の濃い四角の部分になりますが、県の国際関係の施策全般に関して考慮すべき事柄を、横断する視点として 2 つ掲げております。1 つは方法、内容の両面で柔軟に展開させていくものです。これは新型コロナウイルスの感染拡大を受けた視点です。新型コロナウイルスの感染拡大は、国際社会に全く予想もつかなかった変化をもたらしました。また、移動の制限、オンライン交流の急速な普及が、国際交流に新たな方法をもたらしました。そのため、これからの国際関係施策においては、方法、内容ともに柔軟に変化していくことが必要になります。

もう 1 つは、幅広い地域との多層的な交流を展開するというものでございます。これは厳しさと複雑さを増す現在の国際情勢の中で、あえて海外地域との交流を進める意義を改めて考えた中で出てきた視点でございます。第1回検討会議におけるクマーラ委員のご発言をお借りすると、「世界に友達が必要」という言い方になりますが、このような不安定な国際情勢だからこそ、地方自治体としては、海外地域と信頼を深めるような関係の構築が重要だと考えております。その関係というのは、旅行者の行き来、人材育成のための相互交流、経済面での関係の構築等、様々な分野にまたがった多層的なものが望まれると考えております。

以上、簡単ではございますが、資料の 1 枚目、策定の趣旨、愛知県の現状、目指すべき愛知の姿、目指すべき愛知の姿を実現する戦略・施策の方向性の内容をご説明させていただきました。

次に、資料の2枚目及び3枚目についてでございます。資料の2枚目をご覧ください。2枚目、3枚目には、先ほど申し上げました、4 つの分野別の戦略に紐づく施策の方向性と主な取組について記載しております。各戦略の下、具体的に何に取り組んでいくかというものでございます。

戦略の「①若者のグローバル人材としての育成」については、「(1) 英語力、コミュニケーション力の育成」、「(2) 国際感覚の醸成」、「(3) イノベーティブな人材の育成」を施策の方向として示しております。海外地域との提携を活かした複数地域の若者とのオンラインを活用しての交流事業や、海外スタートアップ支援機関との提携を活用したイノベーティブな人材の育成等に取り組んでまいりたいと考えております。

戦略の「②仕事、生活の充実による外国人の活躍、定着の促進」では、「(1) 外国人留学生の受入、活躍促進」、「(2) 外国人材の就業、起業促進」、「(3) 外国人も住みやすい地域づくり」を施策の方向として示しております。留学生の地域定着、活躍促進や、ものづくり留学生の受け入れにつきましては、

引き続き力を入れて取り組んでまいります。その他に、外国人材の在留資格の要件緩和や、特区の活用等の制度面での外国人材の活躍促進、多文化共生の取組をはじめとする外国人にとっても住みやすい地域づくり等を進めてまいります。

戦略の「③愛知ならではの多様な魅力の発信」では、「(1) 愛知ならではの魅力を活かした外国人旅行者の誘致」、「(2) 国際イベントの誘致、活用」、「(3) 国際交流拠点としての機能強化」を施策の方向として示しております。ジブリパークやアジア競技大会、アジアパラ競技大会を活用して、地域の魅力を発信していくことに加え、愛知県新体育館の整備や、Aichi Sky Expo の運営、ハイクラスなホテルの充実等により、MICE をはじめとする国際交流の拠点としての本県の機能を高めてまいります。

最後が、戦略の「④愛知県型成長モデルによる産業の国際競争力強化」です。ここでは、「(1) 海外と連携したイノベーションの創出」、「(2) 国際ビジネスの拡大支援」、「(3) 外資系企業の誘致」を施策の方向として示しております。特にイノベーション創出の施策としましては、海外のスタートアップ支援機関等との提携を活用し、STATION Ai を中心に海外とつながるスタートアップエコシステムの形成に向けた事業を進めてまいります。また、世界各地の産業情報センターや、サポートデスク、国内のあいち国際ビジネス支援センターでの活動を通じて、県内企業のビジネスのグローバル化を後押ししています。

以上、大まかではございますが、戦略・施策の内容についてご説明いたしました。

これらの事業の実施を通じて、「世界と行き来するヒト、モノ、カネ、情報により成長を続ける愛知」の実現を目指していきたいと考えております。

事務局からの骨子案の説明については、以上となります。

＜鮎京座長＞

どうもありがとうございました。

今の骨子案のご説明のところに限って、何か質問等があったらお願いしたいと思いますが、何かございますでしょうか。

＜山本委員＞

1 つよろしいでしょうか。

骨子案では強みと課題を対応する形で作っていただいていて、非常に見やすくて、良かったと思います。

これからやることは、その課題をいかに上に上げていくか（強みにしていくか）ということだと思うのですけど、それに対して、上に上げていけそうな施策が提案されているところもあれば、そのままスルーされているところもあるような気がします。その辺のところを、これからここで議論をすれば良いのでしょうか。

＜鮎京座長＞

今のご質問に関して、事務局から何かご発言はございますでしょうか。

＜木俣国際課長＞

今回資料として付けている具体的な施策については、これまで実施しているものを中心に書いております。現状、課題として認識していることについて、どうしたら上に上げていけるかという施策の方向性についてもご意見をいただければと思っております。

＜山本委員＞
わかりました。ありがとうございます。

＜鮎京座長＞
山本委員が言われたことをもう少し具体的にお伺いします。スルーされているというのは、例えば、どの項目が大きいとお考えですか。

＜山本委員＞
後ろの 2 つですね。国際的な認知度の低さをいかに高めるかという点と、デジタル化の遅れをいかに推進していくかという点について。前の 2 つは割と説明されていたように思います。でも後ろの 2 つに関して、具体的な方向性とか施策を提案するのが難しいようです。

＜鮎京座長＞
後ろの 2 つに関してどうするのか、話があまりないのではないかということですね。この点はいかがですか。

＜木俣国際課長＞
3 つ目の認知度の低さをどう上げていくかということについては、ずっと課題となっていて、なかなか克服できない課題となっています。ただ、やはり東京や京都とは違い、地域の総体的な知名度を上げるということはなかなか現実的に難しいと思います。ですから、この地に固有の魅力、歴史に根差すものや産業に根差すもの、食文化、そういったところをいかに効果的に発信するかということが大事になってきます。ご専門の委員も見えますので、ご意見を聞きながら考えていきたいと思います。

＜鮎京座長＞
今の点でいうと、「認知度の低さ」は、その下の項目で言う「愛知のブランドの確立」と関連していると思いますが、それを具体的にどうしていくかというあたりですね。これは事務局の説明がどうかというよりも、全体的にまだまだという水準だと思いますので、今日はその辺りのブランド力を高めるにはどうしたら良いかというところもご意見をお願いします。
クマーラ先生、ご発言お願いします。

＜クマーラ委員＞
はい。骨子案というのは 1 ページ目だけではなく、2 ページ目以降の部分も含めて、少しコメントさせていただいて良いですか。
特に今回は人材の面に注目してみますと、この 2 ページ目の戦略・施策②あたりに外国人や留学生、

高度人材などの話が出てくるのですが、現時点でも行っている、その他の産業における外国人労働力の受け入れのことについて見えてこなかったのですが、いかがお考えでしょうか。

例えば、具体的に言いますと、SSW（“Specified Skilled Worker”＝特定技能制度）等で、外国人の受入を行っているのですが、地域社会を支えるためには、恐らくこれからもっと数が必要ではないかという議論もあると思いますが、その点いかがでしょうか。

高度人材のこと、留学生のことは、資料から十分わかりました。

＜鮎京座長＞

今のクマーラ先生のご指摘について、事務局からすぐにはコメントが出ないようですので、クマーラ先生のご指摘の点も含めて、また議論したいと思いますが、よろしいでしょうか。

＜クマーラ委員＞

了解しました。

＜鮎京座長＞

それでは、グレン委員どうぞ。

＜グレン委員＞

はい。資料の中に「愛知ならではの魅力の発信」とありますが、そこの「伝統×最先端」というのが、少しわかりにくいのではないかと思いますので、具体的にどういうイメージがあるか聞きたいです。後で出てくる戦略・施策③には「伝統×最先端」に関わることがあまり書いていないので、そのギャップが気になります。もし何かイメージがあれば教えて欲しいのですが。

＜木俣国際課長＞

「〇〇×〇〇」という部分は、文章ではなくキーワードで、イメージを持っていただこうということで付けています。「伝統」は、特に戦国時代を中心に多数の有名な人物を輩出していますので、その辺りを中心とした歴史的なもの。それから「最先端」というのはやはり産業に関わるものです。現在の愛知県は、そんなにハイテク、最先端ではないと言われたらそうかもしれませんが、それを目指してやっていることもあり、この「最先端」を、やはり産業のイメージで付けさせていただきました。

＜グレン委員＞

わかりました。そういういろんな魅力を集めて発信するにあたって、これから内容を絞っていく予定はありますか。

＜木俣国際課長＞

情報を発信していくに当たっては、やはりあまりイメージが拡散しないように、ある程度絞って発信していった方が効果が高いだろうとは思います。

＜グレン委員＞
　わかりました。ありがとうございます。

＜鮎京座長＞
　それでは、様々なご意見あると思いますので、次第 3 の意見交換に移らせていただきます。

３　意見交換
＜鮎京座長＞
　今説明していただいた次期国際戦略プランの骨子の事務局案を踏まえた上で、次期国際戦略プランの方向性がどうあるべきか、また、これを最終的に作り上げていく上でどういう点がさらに必要かということを、これから委員の皆様方にお伺いすることにさせていただきます。
　まず、本日欠席の遠藤委員よりご意見を預かっていますので、事務局からご意見のご紹介をお願いします。

＜木俣国際課長＞
　はい。それでは遠藤委員からいただいておりますコメントを紹介させていただきます。
「今回のプランの策定にあたっては次の点をご配慮いただきたい。
　1 つは、SDGs への関心が高まっているが、国内の活動に目が行きがちだということ。17 のゴールには途上国に関するものも多いが、多くの企業で途上国への意識が薄い。
　もう 1 つは、今後は、国家間ではなく自治体レベルで技術支援や交流を行っていくべきであるということ。これまでは、JICA の支援を通じて日本のファンを多く獲得してきたが、技術支援の面では、韓国、中国、シンガポールなどと競争になる。競争力を持つとともにライバル相手の研究も必要である。
　また、SDGs の目標年次がさらに近づく中、関連する取組が加速される視点も必要と考えている。」
　このようなご意見をいただきました。

＜鮎京座長＞
　ありがとうございます。それでは今日ご出席の委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。時間の都合もありますので、まずは順に 5 分程度で、後で時間があればまた 2 巡目ということにさせていただきます。
　それでは、本日は増田委員からお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

＜増田委員＞
　ありがとうございます。私からは 4 番目の「愛知型成長モデルによる産業の国際競争力強化」のところについて意見を述べさせていただきます。
　まず、最初に「海外の提携先と連携したイノベーションの創出」ということで、冒頭にありましたように 5 月に大村知事がフランスとイスラエルでスタートアップ支援機関含め新たな提携を結ばれたということですが、愛知県が独自で海外の機関と非常にたくさんのプログラムを進めているというのは、他の地域にない先行的な部分だと思います。個々の提携に基づいて各地域とより関係性を深めていくとい

うのはもちろん大事なのですが、ゆくゆくは STATION Ai という拠点に集約していくということですので、そうなったときに、やはり拠点としてできた以上は、拠点の存在価値を広く世界にアピールしていく必要があると思います。そういう意味では提携先にとらわれずに、グローバル・アクセラレーション・ハブというスタートアップを育成するためのネットワークというのが世界に広がっていますので、その世界的なネットワークの中で、STATION Ai が日本における一番価値があるハブであるということを理解してもらえるような中身にしていき、さらにそういう情報発信を深めていく必要があると思います。

今は、具体的にどういう取組をしていくかという基礎作りで各機関と協力されていると思いますが、ぜひそこに留まらないで、海外の人が日本で事業を起こしたり、日本の企業と提携・協業したりする際の最初の窓口になるのが STATION Ai だというようにしていただきたい。グローバルなネットワークに入ってくるというところで機能してもらいたいと思いました。

それとイコールでつながる話なのですが、STATION Ai や中部地域に産業としての魅力が伴っていないと、なかなかそこの情報発信というのが難しい。

その際に、どういう技術分野をさらに成長産業として考えていくかというところなのですが、今、愛知県は主にモビリティ、IoT、ロボティクス、そういった分野でのイノベーションの創出というものを目標に掲げていると思うのですが、コロナ後のニューノーマルの世界で必要とされている課題解決というところに少し目を向けていきますと、もちろん脱炭素、環境、エネルギーの話もありますが、食糧不足に対するアグリテック的なものであるとか、日本が得意とするフードテック、そういう分野に関しても技術を発揮できるような、そういう産業の魅力を直接海外に発信していく拠点にしていく必要があるのではないかと思いました。

＜鮎京座長＞

ありがとうございます。

増田委員から大変重要なご指摘がありました。今言われていたように STATION Ai を日本のハブにするとともに、コロナ後の課題解決の具体的な課題設定をする、特にアグリテック、フードテックを 1 つ中心に据えてはどうかということでした。この点について、委員の皆様、あるいは県からご意見がございましたらお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。皆様、よろしいでしょうか。

それでは、続きまして山田委員お願いいたします。

＜山田委員＞

取りまとめありがとうございました。まず第 1 印象から申し上げます。ヒアリング時は総花的だという話を申し上げ、最終的な「目指すべき愛知の姿」、つまり、この活動の目的を明確にしてくださいということをお伝えしました。それが骨子案にしっかりと書かれていたので、非常に上手くまとめていただいたというのが第 1 印象です。

その目的はというと、真ん中に四角で囲ってある「成長を続ける愛知県」、これをデザインしていくことであるというように私は理解しました。それにつながってくるような施策が下の 4 つの箱であるならば、良いのではないかと思いました。

事前に資料もいただいたので読みましたが、1 個 1 個が連携していると思いました。つまり、前はこの 4 つの箱が 1 個 1 個独立している箱だったのですが、4 つの箱が「成長を続ける愛知」につながって

いく施策になっているということが、この 1 枚目のペーパーでは確認できましたので、非常に良かったなと思います。

あとは、これを具体的にしていくときに、2 ページ目以降に具体的な施策があるのだろうかというのが問題です。これはまだ時間があるので、良いのかなと思いますが。

例えば、一番左の「若者のグローバル人材としての育成」の「国際性×創造性」。創造性とは ICT だと事務局の方にご説明いただいて、僕もそうだなと思っているのですが、実は施策にこの創造性を育む施策がないですよね。大学同士の提携をしても、イノベーティブでかつ ICT を使えて、英語が話せるような人材は生まれないし、生まれたからといって、愛知県の成長につながるかというと、そこの施策があるわけではない。優秀な人が東京へ出ていって終わり、ということになるだろうと思います。

やはり、ここに手が要るのだろうなと思っています。施策レベルでは、その手がまだ独立しているものですから、つなげていくものが右の三つだと思っています。1 つは、高度外国人材。これは前回私が指摘した、愛知県の発展に必要なのは高度外国人材か労働者レベルのブルーカラーの外国人かという問いに関する発言を拾っていただいたのだと思います。愛知県には、確かに外国人は多いのですが、自分でスタートアップを作る起業家や、シンガポールにいるような、金融関係で、在宅で何億円とかいうお金を動かすような外国人というのは、日本には特にインセンティブもないものですから集まらないんですね。じゃあ、愛知県が金融街になりますかというと、名古屋証券取引所が金融を引っ張るというのは有り得ないと思っていますので、そういう意味でやっぱり産業なのだろうなと思っておりました。

とすると、愛知県ならではの「産業」だと言ったときに、左側の箱で目指す「ICT×国際人材」、こんなレベルが高い若者は、日本中探してもほとんどいないのが現状なのですけども、こうした人材が作れるような施策ができて、かつ働ける場所が愛知県で生まれていくと、この一番左の箱が全体の目的につながってくると思っています。ですので、ぜひそこにつなげていきたいと思っています。

一番言いたかったのは、ここまで申し上げた「目的を明確にし、戦略の 4 つの箱をつなげていく」ということなのですが、あと少しバラバラと申し上げます。

愛知型の成長モデルにつきましては、これが先ほどの一番左の人材を作ってここで活用するというところになるのですけども、実は前も申し上げた通り、そもそもイノベーティブな人材がいないということと、企業側もイノベーションの創出に関してモノづくりにこだわりすぎて遅れているというところがあります。

実は、この穴を埋めていただくことを期待できるのがスタートアップの方々なのだと思います。スタートアップに関しては、STATION Ai がその起爆剤になると期待しているところです。

高度な英語をしゃべって ICT に明るい若者が育ったとすると、そうした若者と愛知県の産業界とのつなぎ役として、例えば「今の産業構造をこう変えていきます。私のところの会社のこういうモノづくりの技術を生かして、ICT を掛け合わせるとこういう新しいものを生み出せます。」という提案をする。これは、日本人の社長さんでは難しいと思っています。そこを埋めていくのが、外国人のスタートアップだと期待しています。

1 つ、それの裏付けすることを申し上げます。知事がこの前にイスラエルに行かれた際に、私ども豊田通商の駐在員のところにも行っていただきました。そこで知事をお連れした Start-up Nation Central というスタートアップを紹介する国立の施設があるのですが、その人たちと話しているといつも言われます。「日本企業は来ても新技術を買って帰ることも全くなければ、持って帰ることもなくて、話だけ聞

いて帰るんです。」と。私も実は 3 回ぐらい行って、1 個投資案件を決めたのですが、ほとんどの人たちが「勉強になりました。」と言って帰っていく。イスラエルのスタートアップをまとめている人たちからすると「勉強しに来たのかよ。二度と来るな。」と思われて、日本人って不人気なんですね。なぜ不人気かというと、日本人自体は、日本から行く企業はお金を持っていると錯覚しているのですけども、持ってくるバジェットが実は欧米の 100 分の 1 ぐらいなんです。イスラエルのスタートアップからすると、日本には全くお金を期待していません。

じゃあ何を期待しているのかというと、イスラエルの技術の適用場所を期待しているんですね。つまり、日本企業というのは世界に冠たるいろんな製品を作っているのですけども、それにイスラエルの技術を使おうとしない。日本の製品には適用場所がいっぱいあるのですけども、適用するまでのつなぎ役がいないということです。このつなぎ役が日系企業の中にいないものですから、最先端技術を取り入れられないということになっていて、それが結局競争力の低下につながってしまう。緩くて速い韓国みたいな戦略が打てない。重厚長大になってしまう。要らないものをどんどん作るということになるんですね。

このイスラエルの人の怒りを少し参考にして「技術の適用場所を与えるんで、愛知県に出てきてください。」という誘致の仕方をすると、左側の施策で作った ICT 人材と、日本のモノづくり産業と、それから高度外国人が集まる街づくりができると思います。産業を中心とした街づくり。ついでにいうと、高度外国人材が集まる街、小さくても良いけど、ぎゅうぎゅうとひしめき合うように外国人がウロウロしている街って、日本の若者から見るとかっこいいですよね。このかっこいい街を、ぜひグレン先生にプロモーションしていただいて、外国人にとって住み心地が良い、そして若者にとってかっこいい街、かつそこではスタートアップがいて、産業界がそれを活用していて、というようなところが、1 枚の画になったら素敵だなと思って見ておりました。

方向性は大部分できてきたので、これが施策に落とせたら良いなと感じた次第です。

以上です。

＜鮎京座長＞

ありがとうございます。

それでは続きまして山本委員お願いします。

＜山本委員＞

はい。よろしくお願いいたします。私はやはり教育に携わる者として、人を中心にお話したいと思います。3 点お願いいたします。

1 つ目は、交流という観点で申し上げます。

日本人に対するグローバル化のための英語教育は、かなり進んでいると思います。ただ自分が言葉を教えている者として思うのは、いくら教育しても無駄なんですね。無駄というのか、あるレベルまでしかいかない。結局それを日常的に使う場所がないと、それ以上はいかないんですね。ですので、ここに住んでくださる外国人との交流の場のような、日常的に英語が使えるような場所を、何らかの形で提供できたら良いと思います。

先ほど高度人材とそうではない人材というお話がありましたが、かなり歳を取ってきた身として考え

ると、今後介護していただくのは多分、外国の方だろうなと思っています。日本ではそういう方を受け入れているけれど、日本語があまり上達しないため、せっかく志を持って日本にいらっしゃっても、そのまま帰ってしまうことがある。とても残念なことです。この 2 つの解決策として、日本人の若者たちが英語などの外国語を使う場所と、外国の人たちが気軽に英語で話せて、かつ日本語も使ってもらえるような場所が、何らかの形で実現できたら本当の意味でのグローバル化ができるのかなと思います。以上が交流という点からの 1 点目です。

2 点目ですが、安全について考えました。もう見たくないかもしれませんけど、最近、大きな事件もありましたので。

ここで言う安全には 2 面あると思うんですね。物理的な安全と、情報のようなセキュリティの安全です。愛知県には IT 人材がいないというお話がありましたが、名工大としては、IT 人材を一生懸命輩出しているつもりです。ただ IT 人材は、先ほど山田委員がおっしゃったように東京等に行ってしまいます。でも、IT 技術は時空を越えるので、時空はちょっと大げさかな、空間を越えるので、必ずしも愛知県にいる必要はない。また、それを使う能力も今のデジタルネイティブ、つまり小さい頃からスマホが普通にある子供たちは、私たちの想像以上に身に付けているのではないかと思います。そのため、何が必要になってくるかというと、この IT を使うためのセキュリティに対する意識です。単に IT を使える者だけを育成するのは、近くで見ている者からすると、非常に危険だと思います。志、人格といったものをきちんと担保していけるような形で IT 人材の育成をぜひやっていただきたい。

ここで少し付け足します。先ほどの交流に戻りますが、具体的な人と人との交流という点から見ると、外国人の方にとって、前回の検討会議でのお話にもあったように、日本は友達がいないとやっていけない世界になっています。したがって、友達という安全保障、友達がいるかいないかで安全性はすごく変わると思います。そこのところが上手くいくと良いなと思いました。

最後 3 点目です。魅力ですが、愛知県には本当にいろいろな魅力があって、どれを中心に進めていくかは非常に絞りにくいと思います。また、海外との交流協定もたくさんあって、会議前にざっと見させていただきましたが、年に 1 回のイベントで終わっていくような形が主流だったりしますよね。現状のまま、どの相手に対しても類似したイベントを年に 1 回行って終わりというのは残念な気がします。地域性や相手による違いをきちんと見分けるのが大切だと思います。

愛知県には、住みやすさの魅力とか、サブカルの魅力とか、いろいろな魅力があります。その中で、技術の魅力でいうと、今は自動車と言っていますけど、将来的には空飛ぶものに移行するのではないかと思っています。というのは、愛知県は航空機、戦闘機を作ってきた歴史もあるので、空飛ぶものは結構得意ではないかなと思っているからです。愛知にはいろいろな魅力があります。一方で、それぞれの相手（交流対象）によって刺さるところは違うと思います。せっかくこれだけ交流協定があるのだから、どの相手に対して何が魅力的なのか、そういうところから探っていくのが 1 つの手としてあるのかなと思いました。

長くなりました。以上です。

＜鮎京座長＞

ありがとうございました。

山本委員におかれましては、交流、安全、魅力というキーワードに基づいて問題を提起していただき

ました。
　特に 1 番目の交流という点は、要するに日本人と外国人の交流する場所を、具体的な愛知県という場においてどのように構想するべきかという問題です。様々に考えることができるようにも思われますが、しかしながら、きちんとした質の場所をどのように提供できるかということになると、これはこれで大変だなという感じがします。
　山本委員のご発言に関して、どなたかご意見はありますか。

＜グレン委員＞
　手を挙げても良いですか。
　少し余談になりますが、確かに日本は安全な国です。この間の事件があったとしても、それは間違いありません。世界の皆さんは日本が安全で安心な国、強い国だとわかっています。
　それでも、例えばビジネスマンが日本へ来ると、もちろんいろいろな可能性がある一方で、さまざまな課題もあります。言葉の問題等で、日本でビジネスを始めることは簡単ではない等さまざまな壁がある。その壁を越えることが難しいから、日本じゃなくて、シンガポールや他の国で良いと考えてしまう。
　そんな中で「なぜ愛知なのか。」というところを考える必要があると思います。確かに愛知には企業やメーカーが多くあるのでビジネスチャンスはあると思いますが、言葉の壁は大きいです。先ほど山田委員も言ったように、ビジネスで外国人に来て欲しいなら、愛知が外国人に選ばれる理由を作るべきだと思います。
　あとは、やはりネームバリューが必要です。それが愛知県にはまだないですね。
　少し話がずれたかもしれませんが、以上です。

＜鮎京座長＞
　ありがとうございます。
　それでは続いて、横山委員お願いします。

＜横山委員＞
　はい。横山です。
　第1回の検討会議が終わった後に、自分のフェイスブックに愛知県さんのHPのリンクを張りました。誰かコメントしてくれると良いなと思ったら、スタートアップで世界を飛び回っている知人から、第 1 回の議事録を読んだ印象として、「愛知県さん、少し危機感が足りないんじゃないのか。」と言われました。つまり、自動車産業をモビリティ産業に変えられなかったら、愛知県はどうやって生きていくのかと、一般的に愛知県以外の人は皆思うわけです。もう少し危機感を持った方が良いということがまず 1 つコメントとしてありました。私もそうだろうなと思うところがあります。
　もう 1 つは、やはりこういう検討会議をやったときに、例えば、先ほど座長がスタートアップの担当教員を愛知県立大学で早速準備をするとおっしゃった。このように、こういう検討会議を通して、ステークホルダーがそれぞれ動き出すことが非常に大事です。戦略のための戦略ではなくて、1 回目から情報公開して、パブリックコメントの前に、ある程度いろいろステークホルダーが動き出すような発信をしていかないと。やはりステークホルダーが興味を持っていろいろなこと言ってこないと駄目なんです

よね。

ですから、私は広報の視点でもう一度見直してみました。要は、これがある程度マスメディアに発信した時に、どう受け取られるかを考えながらもう一度読んでみました。

例えば、策定の趣旨に、今非常に先行きが見えないとありますが、今盛んに言われている「VUCA」という言葉があるので、例えば「VUCA の時代」というような言葉を入れていくこと等が必要かなと思います。

また、6 月 16 日の個別ヒアリングの日に、事務局が骨子案に関するペーパーを持ってきた時に、愛知県の現状は強みと課題で整理した方が良いという話をさせていただきました。それを今日入れていただいたので、非常にわかりやすくなったかなと思います。

加えて、戦略・施策の方向性に「目指すべき愛知の姿を実現する」という言葉を入れることによって、さらにこの 3 つの関係はよく見えてくるというお話をさせていただき、それも入れていただいたので、ある程度わかりやすくなったかなという感じがいたします。

目指すべき愛知の姿の中で、「成長を続ける愛知」というのは、確かに成長という言葉は良いのですが、この施策の方向性を見てみると、「国際性×創造性」、「海外の知識×地域の力」、「伝統×最先端」、「モノづくり×デジタル化」という、掛け算が非常にわかりやすいと思います。これは、実をいうと、経済学でいう新結合ですよね。つまりイノベーションなので、目指すべき愛知の姿の中に成長、あるいはイノベーションを続けるという言葉を入れたらどうかなと思いました。私は今、地域イノベーション学会に入っているのですが、地域がこれから生きていく上では、イノベーションを常に意識してやっていくべきだと考えております。成長・イノベーションと入れることによって、さらに明解に方向性が見えてくるのではないかと思います。

あとは、具体的に次のページからいろいろ見ていきますと、例えば、施策の②は、岐阜県と三重県とは違うところだと思います。全体的に見て、先ほど山田委員がおっしゃられたように、愛知に海外の人たちが結構街を歩いているようなイメージができる。私は 18 歳まで名古屋にいて、東京の大学に行ってから、名古屋は外国人が少なかったんだなと思ったのですが、これを見ると、愛知県はこれからかなり国際化してくるなと見て取れるので、そういう意味で近隣の岐阜県と三重県とは違って、愛知らしさがよく出てきている感じがしました。

あと、先ほどの交流する場所の話は、次の戦略・政策の方向性の具体的なことでちょっと考えておりますので、その時にコメントをしていきたいと思います。

以上でございます。

＜鮎京座長＞

ありがとうございます。

続きまして、スリランカのクマーラ先生お願いします。

＜クマーラ委員＞

はい。それでは私から、4 点ほどお話したいと思います。

全体を見ると、大分整理されているかなと思います。

その中で、まず 1 点目としては、この国際戦略プラン全体で、交流は非常によく出てくると思うので

すが、先進国との交流は、例えば、愛知県対外国の様々な地域や大学の事業でよく見えてくるのですが、アジアの中で、シンガポールやベトナム、バンコク等はありますが、南アジアは弱い。現時点では、南アジアはいろいろな意味で課題を多く抱えております。けれども、その辺りも少し考えた方が良いのではないかと思いました。例えば、インドは将来的に非常に大きな経済国になるでしょうし、少し考えても良いのではないでしょうか。やはりアジアは、世界人口の約 6 割がいるところで、良い関係を持つことによって将来的に日本が得られるメリットや、同時に日本が参考にされるようなところもあるのではないかと思うので、これから考えた方が良いかなと思います。

2 つ目は、コロナあるいはポストコロナを考えた場合に、アジアには途上国が多くありますが、先進国、例えばシンガポールに対しても当てはまるような悪影響があります。

例えば、コロナで何が一番大きい悪影響を受けているのかというと、人の移動です。人の移動はただ観光だけではなく、生産活動、それに伴って輸出輸入等の貿易活動、労働力等にも悪影響を与えており、日本も様々な形で悪影響を受けることになりそうな感じがします。これは日本全体だけじゃなくて、愛知県に関しても同じことが言えるかなと感じます。

今私がいるスリランカでは、いろいろな大混乱が起こっています。それについてそれほど触れる必要はないのですが、これはスリランカだけの問題ではなく、ミャンマーあるいはネパールやパキスタン等の国々でも、様々な課題がコロナを原因として出てきている。コロナも、以前は途上国の問題だと考えられていたかもしれない。けれど、今では全世界に悪影響を与えることになったのと同じように、それぞれのアジア諸国で起こっていることが、それぞれの国だけではなく日本にも、今回我々が議論対象としている愛知県にも、同じように悪影響を与える可能性があります。それも念頭に置いて考えた方が良いかなと思います。

特に 1 ページ目の横断的な視点で書いてあることは、とても大事なことだと思うのですが、その辺りを踏まえると、やはりこれからは人の交流。先ほど山本委員や山田委員もおっしゃったのですが、日本は外国人にある程度頼らざるを得ない。その一方、日本国内で若者のグローバル人材としての育て方も大切。このうち、特に日本に来ていただく外国人に関しては、日本に来ていただいてから日本社会への適合を考えるよりも、日本へ送り出す前にそれぞれの国で何らかの形で訓練ができれば、とても効果的で円滑に人の交流もできるのではないかなと考えます。

例えば、本日のオンライン会議のように遠隔的指導ができるので、愛知県の大学の若者や教員が、外国の方が日本に来る前の事前研修をオンライン等で行うということを考えてみると、長い目で見ればとても良い結果につながるのではないかなと感じます。

特に私が一番気になるのは、これから入国が増えるだろう SSW、つまり介護、農業や建築等の分野の人たちです。差別する発言ではないのですが、SSW の人たちはそれほど高い教育を受けて来るわけではない。彼らの考え方や行動の面でも、様々な課題が見られると思うのです。

別の言い方をすると、高度人材と言われる人々は社会で多分摩擦は起こさないでしょう。ですが、そうではない人々の場合には、これまでもいろいろな課題が出ています。ですので、送り出す前に、あるいは愛知県に迎える前に、送り出す国における事前研修等、愛知県の様々な組織が関わることを積極的に考えた方が良いのではないかと思います。

とりあえずここで発言を終わらせていただきます。

＜鮎京座長＞
　ありがとうございました。
　それでは、グレン委員お願いいたします。

＜グレン委員＞
　戦略・施策の 3 番目についての「愛知ならではの多様な魅力」。これは、結構大切なキーワードだと思います。
　愛知県が考える「愛知ならではの多様な魅力」という意味を、明確に知りたいと思います。多様とはいろんなことという意味なのですが、これだと曖昧過ぎて少しわかりにくい気がします。
　次に海外のプロモーションについてなのですが、ジブリパークはもちろん愛知のキラーコンテンツです。それは間違いないのですが、ここで大切なことの 1 つは、ジブリパークに来た人に、愛知県の他の場所も回ってもらい、愛知県の魅力を感じて、満足して帰ってもらうことです。
　その場合に、ここに書いてある宿泊や、交通事業者との連携はもちろん大事ですが、いろいろな観光施設や史跡などの環境整備も非常に大切だと思います。看板、パンフレット、もちろん今の時代はウェブサイト、アプリ。ガイドは人間のガイドだけではなくて、音声ガイドやビデオガイドの充実も必要だと思います。プロモーションだけではなくて、環境整備も同時にやることが、非常に大切だと思います。
　国際イベントの戦略・施策なのですが、ここに書いてあることを見ると、アジアだけに力を入れれば良いという風に見えるので、他の地域との交流についても書いた方が良いと思います。
　次に MICE については、MICE を誘致できると愛知県の知名度やネームバリューが上がるのはもちろんなのですが、MICE を愛知県、名古屋に誘致するためには、ネームバリューや魅力が必要です。世界中の人々が愛知県を知らなければ、MICE を誘致できないという問題があります。卵が先か鶏が先かのような状態です。両方がうまく回るような、戦略・施策をもう少し具体的に考えて欲しいと思います。
　最後にゲートウェイですが、インバウンドで、特にオーストラリアは愛知県としてもターゲットにしたい国の 1 つなのですが、そのためにぜひ、オーストラリアから中部国際空港に直行便が来るようになって欲しいと思います。そうでないと、アクセスが少し悪いので、今回は愛知県に行くのをやめようとなる。関西、関東に行くことしか視野に入らないことになってしまいます。
　そして、今回の内容を見ると一番基本的な問題である愛知のブランディングという部分の施策がまだ弱いと思います。どういうイメージで、どういうメッセージを伝えたいと考えているのか。それをどういう計画で進めていくかというのは、とても重要です。ネームバリューを作ることは、愛知にとって、今とても大切な部分だと思います。ネームバリューをどう作っていくのかについての計画やイメージがあると、MICE を誘致しやすいのではないでしょうか。ネームバリューができれば観光客が来ます。観光客が来れば、さらに中部国際空港への海外からの直行便を増やすこともできます。
　現在、中部国際空港で、もう 1 つの滑走路を作っているのは、未来にとってはすごく良い計画なのですが、滑走路を作るだけでは飛行機が増えるわけではないと思います。やはり、愛知県に来る理由が必要です。今の計画も悪くないとは思うのですが、ただ、もう少し具体的な内容が必要だと思います。
　以上です。

＜鮎京座長＞

今日、皆さんが言われたように、項目的には非常に適切であるが、やや漠然としている、具体化の点からすると、まだはっきりしていない等々の部分がありました。特に横山委員が言われたように、戦略プランを作る事も大事だが、まずは動き出す事が大切であるというお話がありまして、私も全く同じ意見でございます。

何を言おうとしているかというと、愛知県において、それぞれの 4 つの項目がこれまで全く進んでなかったわけではなく、実際にそれぞれの課題について、いろんな先進例があるように私は思っております。

今朝の中日新聞に、愛知県の住みやすい街で長久手市が一番という記事が書いてありました。いろいろな理由があると思うのですが、なるほどと思いました。

例えば、私は長久手市に大学があるので、朝 8 時頃に長久手の街を横切って車で通勤するのですが、長久手市がすごいなあと思うのは、信号がある交差点、小さいものから大きいものまであるのですが、各交差点に数人の年配の方々がいて、子供たちが渡るのを誘導している。長久手市は、小学生の子供が多いということで、福祉や安全に力を入れていて、住みやすいというのがあります。

外国人の方々にとって、長久手市が住みやすいと思われるかどうかは、私にはわかりません。ただ、日本人に住みやすくない街は、やはり外国人も住みやすくないのではということが、何となく想像できます。

この 4 つの項目について、すでに先進例があると思います。先進例をもちろん当てはめても、この目標には足りないところが多くあると思います。しかし、具体的なイメージが、項目ごとにしやすくなると思うので、事務局としてはぜひこの夏にでも、愛知県ではどのような先進的な事例がそれぞれの項目にあるのかというのを調べて、委員の先生方に知らせていただけると良いなと思いました。

あと 40 分ほど時間もありますので、今までの議論も踏まえた上で、さらに発言されたいことがあれば、1 巡目と同様の順番で発言をお願いします。増田委員お願いします。

＜増田委員＞

わかりました。

山本委員から、日本人の学生で英語を使えるようになっているが、英語を実際に試す場所がないということと、日本に来ている留学生も日本語を使う機会はあるが、英語や母国語を使える場所がないので、両方のニーズを叶える場所があれば良いのではという意見がありました。

先週末、ワークショップをやりました。日本のスタートアップの課題の 1 つに人材不足というのがあります。その課題解決のために、外国人人材を採用する、もしくは、インターンシップで受け入れる機会を作れないかと考えました。

スタートアップ企業も外国人留学生自体も少ないので、今までマッチングの場がありませんでした。今回マッチングをしてみようということで、スタートアップ企業と外国人留学生から参加者を募ってワークショップを開催しました。それぞれ、SDGs の 17 の目標から 1 つテーマを選んで、いろいろアイデアを出していくという内容のワークショップです。栄のナディアパークの地下で開催しまして、そこは民間のコワーキングスペースのような所でした。元々そこは、外国人が日本語を学ぶ場所であり、英会話の学校なのですが、そこがコワーキングスペースを兼ねていて、外国人も日本語を学ぶために来て、

日本人も少し仕事をするために立ち寄れるような場所でした。スタートアップ企業と留学生が初めて会うにしても、非常にやりやすいオープンな場所で開催されました。

スタートアップ企業も、外国人留学生と交流することで採用してみようかと思うきっかけになったと思います。もう 1 つは外国人留学生がスタートアップ企業とも英語で交流ができ、他の大学にいる留学生とも交流ができたので、新しい世界が生まれたのを感じました。その留学生は、JICA が支援している留学生が中心でした。国籍がアジアだけではなく、アフリカやアフガニスタン等、普段見かけない留学生もいて、日本にいながら海外にいるような多様性のある雰囲気でした。

その取組が、留学生が在籍している大学の方々にも好評で、また開催してほしいという声がありました。我々としては、「(愛知県を) スタートアップの街へ」ということでワークショップを開催したのですが、留学生から、そういうニーズがあることがわかりましたので、名古屋にいながら国際的な場となるものを今後多く作っていけたら良いと感じました。

＜鮎京座長＞

今のお話なのですが、日本人学生の企業へのインターンシップは広範囲に行われているのですが、山本委員、外国人留学生の企業へのインターンシップは、どういった状況でしょうか。

＜山本委員＞

現在は、愛知県から非常に多くのインターンシップに関する支援をしていただいていております。名古屋工業大学の場合ですと、「愛知のものづくりを支える留学生受入事業」だけではなくて、先ほどお話にあったような、JICA の奨学金などでアフリカから多くの学生が留学に来ていまして、そういう学生たちも、愛知県の主催するインターシップを通じて、企業でインターンシップの経験をさせていただいております。

＜鮎京座長＞

愛知県が仲介となり、企業を紹介してもらえるということですか。

＜山本委員＞

インターンシップには、本学が紹介するインターンシップもあれば、インターネットで募集しているインターンシップもあります。また大きな企業は企業ごとに個別にインターンシップを募集しています。名古屋工業大学の場合は、愛知県が行っているインターンシップに大分助けていただいているので、ありがたいと思っています。インターンシップへの参加によって、アフリカからの留学生も日本で働きたいという意欲が非常に強くなっています。ただ、日本語能力の面で問題があるため、この前の日本語能力試験の結果はどうだったかなと心配な学生もいるのですが、非常に助けていただいているのは事実です。これをもっと広げていくような形になれば、良いと思います。

一方で、受け入れ側の企業のハードルが高い、日本語に対する要求レベルが高いため、なかなか留学生が応募できないことがあります。送り出し側を充実させるだけでなく、受け入れてくださる企業が間口を広げていただけるのかということに問題のカギがあります。現在は DeepL 翻訳のようなものがあるので、それを使えば、喋った言葉を携帯で翻訳して、それを見せて会話できます。名古屋工業大学のア

フリカの留学生はインターンシップの時にそれをやっていたそうです。日本語や英語で話して、わからない時に DeepL 翻訳で翻訳したものを見せて、また話して、というような形でやっていました。こうした手段を使えば、日本語能力が多少低くても、インターンシップには参加可能だと思います。

＜鮎京座長＞
　新しい状況ですね。

＜山本委員＞
　はい。ぜひその方法でもやっていただきたいと思います。

＜鮎京座長＞
　愛知県の実施しているインターンシップに関してお伺いしてもよろしいでしょうか。

＜木俣国際課長＞
　山本委員のおっしゃった通り、愛知県が企業を募集して、県内の大学にもインターンシップに参加したい留学生の募集協力をいただいて、留学生と企業をマッチングしています。そして、夏休みに毎年インターンシップを行っています。
　昨年度は、172 人の留学生がエントリーをして、企業は 62 社エントリーがありました。しかし、山本委員がおっしゃったように、マッチングは全部の企業が受け入れてくれるわけではなく、62 社のうち 48 社が留学生 114 人を受け入れました。
　春休みは、もう少し規模は小さいですが、愛知労働局で留学生向けのインターンシップを実施しています。

＜鮎京座長＞
　愛知県の全部の大学に案内を出してインターンシップに応募してもらっているのですか。

＜木俣国際課長＞
　そうです。インターンシップの募集に関しては、大学に 10 回程説明会を開催しました。

＜鮎京座長＞
　これで 172 人の留学生の応募は、少ないかもしれない。全部の大学で約 50 校ありますよね。

＜山本委員＞
　文系で日本語ができる学生は、県が実施するマッチングを利用しなくてもインターンシップに参加できると思います。名古屋工業大学の学生のように、技術力はあるが日本語が得意ではない学生は、学生と企業が合うように 1 つ 1 つのマッチングにすごく手間をかけていただいているおかげで、インターンシップに参加できていると思っています。

＜鮎京座長＞
わかりました。
それでは山田委員お願いします。

＜山田委員＞
最初のターンでほとんど話したいことを話したので、お話しすることがないのですが、他の委員がおっしゃったことで少し気になったことがありました。
「伝統×最先端」が、浮いているのではないかというご指摘があったのですが、良いキャッチコピーであると思ったので、ここに合うような施策を見つけてきていただきたいと思っています。
先ほどご説明いただいた、歴史を産業と掛け合わせるという話ですが、正直、歴史と産業は掛け合わせられないと思っています。なので、「歴史×食文化」など、外国から来て日本に住んでいる人々から見た日本ならでは、この地区ならではの魅力を語り部のようにやっていく施策がないから、愛知県らしさみたいなものが（現状、次期あいち国際戦略プラン骨子案には）ないということであれば、まだ良いのかなと思いました。無理やり歴史と産業をくっつける必要はないと思います。
現行の「あいち国際戦略プラン 2022」の中間評価の際にも言いましたが、日本のサラリーマンは、日本の魅力を語ることができない人種です。私もそうです。
エピソードとして申し上げるのですが、外国人のエリートと会話をしていくと、5 分でバテてしまうんですね。これは英語力ではなくて、日本のことがわかっていないからなんですね。学生にもやはり同じことが言えて、くだらないゲームの話や芸能人の話はできますが、アートや思想の話、ヨーロッパの世界史といった背景を語れる人間がほとんどいません。だから、大人になっても外国人のエリートとは、ゴルフの話くらいしかできないんですね。これでは 5 分で飽きてしまうし、外国人から見ると、そういう話ができない人間だと思われてしまいます。
では何が必要になるかというと、高等教育の段階からリベラルアーツをやっていただきたい。それを発揮して日本の魅力を語る場所が欲しい。それを発揮する場所がないんですね。私は外国に以前いたのですが、外国人は子供の頃から、カクテルパーティーに参加することが多いんですね。私の息子も参加していたのですが、親がカクテルを飲みながら外国人のエリートと話している横で、子供は子供同士で何かを話しているのですが、私からすると大変辛い 1 時間半のカクテルパーティーの間に、いかに会話力を身につけるかを考えて参加していました。このセッションが日本にはないんです。日本人にはとても苦痛な時間帯ではあるとは思いますが、こういうのがなければ、勉強したものを発揮する場がありません。
先ほどの話、英語を使う機会がない。そのため定着しないと言ったのですが、生の英語というのは、定型文ではない会話の中で日本を語る語り部になる、というような経験をぜひ作ると良いと思います。
そういう場所がもしあるのであれば、その場所に外国人は集まるし、かっこいいことに憧れる日本人の高校生、大学生が集まってくる。実は今のところそういう場所は日本にはない。愛知らしさで、ぜひ先ほどのスタートアップの話と絡めて産業界に本気になっていただきたい。外国から来ている、いわゆる駐在で来ているエリート外国人、この方たちに本気になっていただき、愛知県の企業の中に埋もれている外国人エリートたちの家族も含めて、愛知県にそういうかっこいい場所をつくれたら良いなと思っています。

＜鮎京座長＞
　大変面白いお話をいただいて、なるほどと納得いたしました。
　では、山本委員お願いいたします。

＜山本委員＞
　私もほとんど一通りのことは喋り尽くしてしまったので、思い付きだけ 3 つお願いします。
　1 つ目は、やはり産業の基となるエネルギーというものを愛知県としてどう確保していくか、というところをきちんとしていかなければならないなと思います。だからといって、私に具体的な案はありません。産業が重要であれば、エネルギーの確保というところを 1 つきちんとしていただきたいです。
　もう 1 つ、先ほどアグリカルチャーの話をされていたのですが、農業はとても大事だと思います。今回のことでもすごく思ったのですが、地産地消というものをもっと大事にして良いのではないかと思います。外国の方の力を借りて愛知県内で地産地消することは、同時に、外国の人にとって、愛知の農業について学ぶ機会になると思いますので、そのようなところも売りになっていくのではないかと思います。
　最後ですが、対象国として、これからインドが中国に代わって台頭してくると思います。インドは人口でも中国を抜くと言われています。ただ 1 つだけ、インドにはカーストがありますので、そこをどう乗り越えていくか、ということがインドを対象とした際の問題になるという気がします。
　加えて、私が最近力を入れているアフリカも同様です。アフリカは本当に広いです。いろいろなことがあって、いろいろな文化があるので、魅力と価値に溢れています。ですので、ぜひアフリカもターゲットとして見ていただきたいと思います。
　以上、3 点です。ありがとうございます。

＜鮎京座長＞
　今日は、次から次へと良い話が出てきて、アフリカという部分では、4 月から JICA 中部の所長になられた方は、アフリカにずっといた方ですよね。そういった人に活躍してもらうと、アフリカという地域がもっと身近になると思います。
　それでは、横山委員お願いいたします。

＜横山委員＞
　それでは、私は、戦略・施策の①～④について具体的にコメントをしていきたいと思います。
　先ほどのスタートアップの話は非常に大事で、先ほどもお話しさせていただいた通り、愛知県立大学がスタートアップ関連の講座を始めるとお聞きしました。実はこの地域、東大や早慶に比べると、スタートアップ関連の講座が非常に弱いです。愛知県立大学がこういったものを始めた時に、例えば、愛知学長懇話会で共通に単位を認めること、あるいは、せっかくイスラエルやフランスと提携したのであれば、今回の知事の外遊で協定を結んできた成果として、また、スタートアップ関連について教えられる人材がこの地域に少ないということから、オンラインで学生がそういった場に参加できるようなプログラムを、愛知学長懇話会等を活用して、単位を取得できるような形で、県が予算を付けて展開していく

べきだと思いました。

それがまず 1 点目です。

次に、愛知ならではの多様な魅力の発信という部分についてですが、前回の検討会議の中で、連携協定をリアルで結ぶよりも、ネットを活用した方が良いのではないか、という話が出ていたと思います。それを聞いて思ったのは、先ほどの交流という観点もあるのですが、メタバースのようなデジタル空間の中で、愛知県の魅力を発信すべきです。特に、ジブリや戦国武将など多くの魅力的なコンテンツが愛知にはあります。日本人は恥ずかしがり屋ですが、デジタル空間の中でアバターを使って移動するとなると、結構コミュニケーションが取れると思います。あるいは、コスプレをしたりすると自分を出すことができるという部分が非常に強いと思うので、そういうメタバースのような空間で、リアルではなく友達を増やしていく。そのような、留学や観光及びビジネスで日本に来ることにつながるような空間を、いち早く作った方が良いだろうと思います。メタバースは、これから各都道府県がやってくると思いますので、1 番初めに出ればパブリシティも取れると思いますので、できるだけ早くデジタル空間で交流するプログラムを作るべきだろうと思います。

そこに、例えば東海テレビなど、この地域にあるテレビ局には、地域の文化や食など、そういったコンテンツを紹介している番組があるので、それらの多言語化を進めて、グローバルに見られるような形で、ネットからそういう配信が見られるようにする。そういうことも同時にやっていくことが、逆にこの地域のテレビ局に対して、国際化を進めるんだという意識付けにもなります。予算はそれほどかからないと思いますので、そういったメタバース空間の中で、リアルのテレビ番組と連携したような施策を考えるべきだと思います。

3 番目ですけども、この①～④にいろいろ施策が書いてあって、せっかく 5 年間の計画ということなので、環境問題等でよく言われる「バックキャスティング」という手法を活用するべきだと思います。つまり、2023 年から 2028 年までの中でそれぞれの施策を位置付けて、施策が決まってきたら、目指すべき姿を実現するロードマップを作成し、それを見せることで、ステークホルダーが動き出すことにつながると思います。なので、2023 年から 2028 年までのロードマップを、「バックキャスティング」の手法で作っていくべきだということが、進め方としては重要だと思います。

最後のポイントとして、留学と企業の投資と観光。ロンドンでオリンピックがあった際に、彼らが「パブリック・ディプロマシー」というものを全世界に展開していったということがあります。「パブリック・ディプロマシー」というのは、いわゆる、外交当局者だけでなく、自治体や国際交流基金、企業などが、日本の文化やライフスタイルを世界に発信していくという概念です。これは、私も少し研究していたことがあったのですが、愛知県として「パブリック・ディプロマシー」を始めるということをアナウンスすることにより、また注目を浴びてくるのではないかと思います。施策を見ていると、「パブリック・ディプロマシー」に該当するような施策がかなり多いので、そういう言葉も出していくことが大事ではないかと思います。

次期あいち国際戦略プランができた後のことを考えると、何が必要かというと、先ほどもお話しした通り、プランを作りながらステークホルダーを動かすことが大事だと思います。これは広報の視点で言えることだと思いますが、豊田章男社長が「トヨタイムズ」をやられていることは、皆さん全員知っていると思います。この間、日本広報学会で担当者と話をした際に非常に面白かったのは、「トヨタイムズ」は第一義的にはトヨタ自動車の 7 万人の国内の社員と、グローバルには 36 万人の社員に向けて、

社長の危機感を伝えるためにやっているという点です。つまり、常日頃からメディアで発信したものはいろいろ切り取られて、自分の本意が伝わらない場合がある。ただ、「トヨタイムズ」を通して、トヨタが 100 年に 1 度の危機にあるんだということを共有することによって、自社の社員や、サプライヤーを動かすことができるという話です。その結果、副次的には、「トヨタイムズ」をやったことによって、日本を代表する企業が一緒にやりましょうということで集まってきた、ということを「トヨタイムズ」の成果として担当者の方はおっしゃっていました。これで車が売れるという話ではなく、自社の社員、取引先、アライアンス先など、あらゆるステークホルダーが動き出したことが成果であると言えます。その話を聞いたときに、あいち国際戦略プランができた際、知事を中心としてシンポジウム等をやりながら、この戦略を共有していくというプロセスが極めて大事であり、同時に関係するステークホルダーを巻き込むことも重要だと思いました。

例えば、1 つの事例でいうと、③の多様な魅力の発信で、アジア競技大会があります。アジア競技大会をどう活用していくかというと、これもやはりロンドンオリンピックが非常に参考になります。この時に、アジア 40 か国のマスコミも来るわけです。当然、政府の代表みたいな人も来るでしょう。そうした時に、例えば、モビリティ産業に関して、選手村の辺りで実証実験を仕掛けて、それを各国に経験していただく。あるいは、東京オリンピックの際に、日本のお菓子がインスタグラムで全世界に発信されたように、この地域にあるお菓子を配り、それが、マスコミや選手自身の発信につながっていくように仕向ける。このように、アジア競技大会を積極的に活用する必要があると思います。第一義的には、この競技大会における実証実験で、この地域の企業がどういったものをアジア地域に売り込みたいのかというところを今から戦略的に設定し、インフラの輸出につなげていくことが大事だと思います。ですから、しっかりロードマップを作って、目指すべき姿を実現するために何が必要なのかということを明確にしていくことが必要ではないかと思います。

以上です。

＜鮎京座長＞

ありがとうございました。大変面白いお話をしていただいて、なるほどと納得いたしました。

県から何かコメントはありますか。デジタル空間におけるテレビ局とのタイアップですとか、いろいろ具体的な施策が示された訳ですけど、ロードマップを作るとか、その点どうですか。

＜木俣国際課長＞

プランは計画期間が 5 年間ですので、県で実施するものについては、周りを巻き込んでいくという意味でも、5 年間のロードマップを作成することは必要かなと思います。

＜鮎京座長＞

それでは、クマーラ委員お願いいたします。

＜クマーラ委員＞

私からは、横断的な視点というところである、変化する国際情勢における外国との交流という観点からですね。

これは誰も経験したことのない環境ですので、どのようなやり方、事例を成功事例として考えて、その他のところにも普及させることができるのか等を把握するべきと思うのです。その中で、私はスリランカにいるのですが、スリランカあるいは南アジア初の日系の大学というところで活動している中、一方では日本のグローバル人材育成教育学会の会長も務めているわけなのですが、やっぱりその学会の活動として我々が一番苦労していることは、欧米等との大学との交流などは結構あるのですが、途上国、あるいはその中でもアジア諸国との交流は弱いということがあります。以前もお話ししましたが、そうであれば私自身が途上国へ行き、そこで1つの成功事例を作ろうじゃないかと考えて、このスリランカに来ているわけです。

その中で、やっぱり日本の若者は、特にデジタル技術はとても強いんですね。もちろん人材の量的には、将来的にも、現在においても足りないということは置いておいて、そのデジタル技術を活用するという意味ではとても強いのではないでしょうか。ですので、デジタルプラットフォームの充実や普及というようなことが、とても大事ではないかと思っています。具体例として例えば名城大学の事例を申し上げますと、学生に「海外の若者に日本を紹介して欲しい。愛知を発信して欲しい。」ということで、授業を考えてくださいとお願いをしました。外国語学部の1年生9人が集まって、英語及び日本語の両言語で、愛知県とつながりの強い日本の様々な側面、例えば自動車産業あるいは愛知県の文化について、16回もの授業をシリーズ化して実施したということがあります。デジタル情報を上手に活用して地域を紹介する、愛知の魅力発信ということを国内だけに留まらず海外に発信しようとするならば、このようなデジタル技術を活用できる若者は、大分使えるのではないかなと思います。

他の委員からも同じような意見があったのですが、現状では外国の人は「愛知だ」と言われてもピンとこない。東京、大阪あるいは関東、関西というとよく知られているけれど「愛知はどこの地域なのか？」というのは私もよく耳にする言葉です。例えば、名古屋といっても、名古屋よりも豊田の方がイメージが強いということがよくあります。しかしながら、このような愛知の魅力発信に関する活動を実施し続けると、将来的には愛知、名古屋、日本のことをアジア地域あるい全世界に知ってもらうようなことにつながるのではないかなと思います。そうすると、今は東京に行きたい、大阪に行きたいと言っている人が、名古屋に行きたい、愛知に行きたいと言うような時代が来るのではないかなと思います。

私が今滞在しているスリランカには経済的に様々な困難があるのですが、日本の愛知県というのは、私から見ると非常に魅力の高い地域なんです。先ほど「日本人は愛知県の魅力が言えないのではないか」とおっしゃったのですが、逆に私たち外国人の方が、日本人よりも愛知の魅力を知っているのではないかと思いますので、そういう外国人に愛知を発信してもらうということも、大変重要だと思います。

施策の中の外国人の活用ということでは、国内に対する、あるいは愛知県に対する活性化への貢献だけではなく、愛知県で魅力を海外に発信してもらうために、日本の若者と一緒に、こういうデジタルプラットフォームを使っていくということも十分あるのではないかなと思います。今のところ成功事例としてたくさんはないかもしれませんが、先ほど紹介したそういう成功事例を集め、もっと広めることで、愛知県そのものの活性化と同時に愛知県の魅力を海外にもより発信できるのではないかなと思います。

先進国とは良いパートナーを見つけることができるのですが、途上国とはなかなか難しいというのが、大きな悩みではあるのですが、その中でスリランカをその成功事例の1例にしたいなと思い、私も

可能な貢献をさせていただきたいと思います。

参考のためにもう1つ申し上げますと、今、日本の様々な魅力を、スリランカに来てから数回テレビに出て、これからも何回か出ることになっていますが、マスコミなどを通じて発信しています。そういう形で発信することによって、今はスリランカだけかと感じるかもしれませんが、そうではなく、すでにネパールの方からも私達の日系の大学と提携しましょうという話がありましたし、他の国にもこれを広げるようなことを考えています。スリランカを中心にして、その地域での日本の魅力発信という形で、成功事例を1つこのスリランカで作りたいなという思いもあります。また、今のところは成功事例はたくさんはないかもしれませんけれど、それを集めることによって、もっと社会に活かすことができるような施策がたくさん出てくるのではないかなと思います。

以上です。

＜鮎京座長＞

それではグレン委員、お願いします。

＜グレン委員＞

短めにお話しします。先ほど山本委員やクマーラ委員のおっしゃった英語力の強化は、本当に重要だと思います。日本の未来にとってとても大切なことの1つです。日本人は言葉の問題で、世界とのコミュニケーションが上手くできない。IT、ビジネス等で少しずつ遅れを取っているということは少し残念です。ですので、英語力を集中的に上げるということは、ぜひやっていただきたいと思います。もちろんこれは愛知県の問題だけではなく日本全国の問題であり、かなり以前からの課題です。1853年にペリーの黒船が来てからの問題と言っても良いかもしれません。今後、愛知県が英語教育のリーダーとなり、それを世界に発信することができれば注目も集まります。

次に、山田委員がおっしゃった「日本人は日本のことがわかっていない。」というのは、本当にその通りだと思います。残念ながら、自分の国、地域の歴史と文化の知識がない。愛知県の大きなアイデンティティの1つは、やはり歴史と文化です。この会議が始まる前に、鮎京先生と「このエリアはサムライのふるさとだ。」という話をしていましたけれど、やはり、これは外国人から見た時のキラーコンテンツの1つであると思います。愛知県の人が自分の地域ついて、誇りとプライドを持つためにはどうすれば良いか。愛知県民の知識とプライドをアップするために何かできることはないか。常に考えています。県民が地域のことを理解し、それにさらに英語力が加われば、この地域の魅力の発信は簡単になると多います。

昨年、私の会社がある企業と一緒に、愛知県内の100の城を紹介するパンフレット（百花城乱）を制作したのですが、この地域の人だけではなく全国のお城ファンの間でかなり話題になりました。これは、全国のお城ファンが愛知県にある素晴らしいお城の魅力を知りたかったからです。このパンフレットは、かなりの人気で予定よりも早くなくなり、増刷されたと聞いています。それであれば、お城だけではなく、この地域の伝統、歴史、人物に関する本やパンフレットを制作するのも良いと思いますし、横山先生が言った通りマスメディアを使ってその魅力を発信するのも良いと思います。まずは県民の皆さんが知識と誇りを高める。そして、県民以外の愛知のファンを作っていく。わかりやすい、理解しやすいコンテンツを作っていくのも良いと思います。

以上です。

＜鮎京座長＞

最後のご発言から、グレン委員の非常に熱い意見が出て、私も嬉しく思いました。

お城の話も出たのですが、例えば岐阜県岩村の女城主の城というのが地域では有名ですけれども、ああいう所に行ったりすると、地域の状況もわかるし、自然の様子もわかるし、また日本の歴史、この愛知や中部の歴史もわかるということで、大変意義のあることだなという感じがいたしました。

今日は委員の皆様、様々な視点からのご意見ありがとうございました。まだ多くのご意見があるかと思いますが、時間の都合もございますので、座長の私から本日の議論について簡単にまとめておきたいと思います。

今日の話し合いの中では、第1回目に出た案から改訂版を県に作っていただいて、今日提出されたこの骨子については、委員の方々からは、おおむねこの方向で良いだろうというようなこととして私は受け止めました。他方、この現状で全部が良いというわけではなく、一番の問題は、もっとそれぞれの項目について具体的にする。さらには、例えば成功例もそれぞれの項目で集めてみる。また横山委員が言われたように、このプランを作りながら、やれることはもう手を打ってやらなければいけないというご意見は、もっともだろうと思います。さらにはロードマップも、最終案の段階では見せていかないと迫力がないし計画性もないということになるというような意見が出されたように思います。ということで、ぜひ10月に予定されている3回目のこの会議までに、さらに現実的で実施可能な、そういう国際戦略プランを私たちの手でぜひ作りたいということで、今日の話のまとめとさせていただきます。

それでは、本日いただいた各委員の先生方からのご意見につきまして、事務局で整理し今後の検討に反映していただきたいと思います。

それでは、次第4の「その他」について事務局からお願いいたします。

４　その他、閉会あいさつ

＜木俣国際課長＞

まずは、冒頭、クマーラ委員から出た、特定技能実習生の受け入れについての施策はあるのかというご質問に対して回答をいたします。愛知県と名古屋出入国在留管理局が中心になって、「あいち外国人材適正受入れ・共生推進協議会」というものを作っています。特定技能実習生を受け入れるに当たって、労働環境や生活環境、日本語学習の支援などに関して、各機関でやっている事業についての情報共有や連携を進めて、環境整備を行っていきましょうという目的で、こういった協議会が作られております。

あと、座長がおっしゃられたように、第3回検討会議は10月の開催を予定しておりまして、具体的な日程については後日調整をさせていただきます。

次回の会議までに、今日いただいたご意見を踏まえまして、次期プランの素案を作成してまいります。素案ができ次第、個別にまた皆様にヒアリングさせていただきたいと考えておりますので、その日程もまた別途ご相談させていただきます。以上でございます。

＜鮎京座長＞

それでは予定しておりました議題はすべて終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

＜木俣国際課長＞

鮎京先生、委員の皆様、どうも本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。

第 2 回あいち国際戦略プラン検討会議　出席者名簿

（敬称略）

	氏名	団体・役職名	備考
委員	鮎京　正訓	愛知県公立大学法人理事長	座長
	遠藤　和重	国際連合地域開発センター所長	欠席
	クリス･グレン	有限会社パスト･プレゼント･フューチャー代表取締役 インバウンドアドバイザー	
	増田　智子	ジェトロ地域統括センター長（中部） 名古屋貿易情報センター所長	
	山田　強	豊田通商株式会社経営企画部長	
	山本　いずみ	名古屋工業大学留学生センター長	
	横山　陽二	東海学園大学客員教授	
	アーナンダ・クマーラ	名城大学名誉教授 ランカ日本ビズテクインスティテュート学長	オンライン参加
愛知県	沼澤　弘平	政策企画局長	
	佐治　幹夫	政策企画局国際監	
	木俣　功年	政策企画局国際課長	
	一井　誠	政策企画局国際課担当課長	